

## L07a 超スローシャッターCCDカメラ捜天システムによる流星観測

戸田雅之(日本流星研究会)、岡本洋一((株)昭和科研)

超スローシャッターCCDとしては冷却CCDに代表されるようなコンピュータとセットで使われるものが主流となっている。この外にも、出力をNTSC標準ビデオ信号としているもので、その同期よりもはるかに長い間シャッターを開くことが出来る超スローシャッターCCDも存在している。

我々は超スローシャッターCCDを使用した無人カメラシステムを構築し、それを上空に向けて設置し、その画像をタイムラプスビデオで記録した。数ヶ月にわたり記録した結果、50個以上の火球クラスの明るい流星を記録できた。運用では記録媒体からの流星の検出がはるかに容易になり、長期間の記録を安価なメディアに記録できるのでランニングコストが低く抑えられることが出来た。

このカメラを流星観測に併用することによって、従来行われている眼視、写真、TVによる観測データに新しい情報を追加し、火球パトロールや流星群の出現数記録について有意なデータを提供できるであろう。